

2021 年度さくらねこ無料不妊手術事業

団体枠アンケート 集計結果

さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」は野良猫や多頭飼育の猫に対して不妊手術を行い、猫への苦情や殺処分の減少に寄与する活動です。

2021 年度は 3,142 名の個人(一般枠)、43 団体、213 の行政と協働し、約 55,000 頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

一般枠での無料不妊手術実施数 26,314 頭

団体枠での無料不妊手術実施数 2,883 頭

行政枠での無料不妊手術実施数 25,257 頭

多頭飼育救済枠(行政枠)での無料不妊手術実施数 1,260 頭(うち犬 21 頭含む)

無料不妊手術実施頭数 総合計：55,714 頭

1. アンケート概要

2021 年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に申請があった協働ボランティア(団体枠)に事後調査アンケートを実施しました。

※団体枠とは：行政枠に属さない団体、NPO 法人、自治会

団体枠登録対象者

団体枠 A＝【公益財団法人、公益社団法人、NPO 法人、認定 NPO 法人、一般財団法人、一般社団法人】のうち、どうぶつ基金の地域相談窓口として紹介されること、相談者に対応することに同意した団体

※地方公共団体が運営している施設(公園等)の管理を委託されている指定管理者は行政枠にあたるために含まれない。

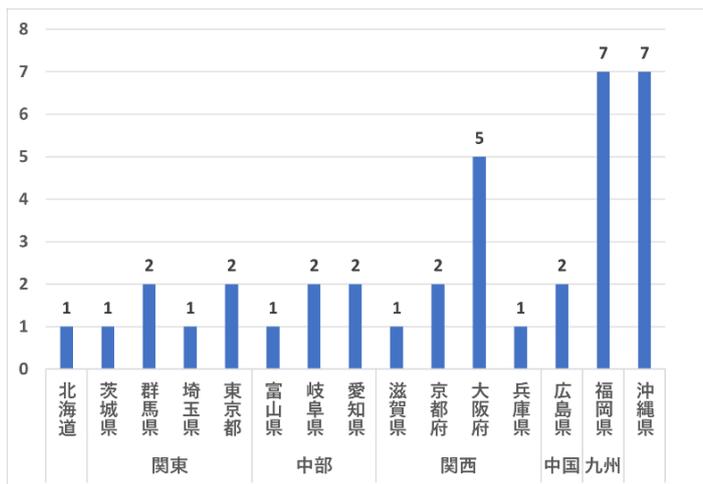
団体枠 B＝学校法人、自治会連合会、自治会(チケット使用対象地域は自治会や学校の管轄内の猫に限る)

- ・ 2021 年度さくらねこ無料不妊手術チケット申請団体数 43 団体
- ・ アンケート対象となる団体枠マイページ登録団体数 57 団体(2022 年 3 月 31 日時点)
- ・ アンケート有効回答数 37 件 (マイページ登録団体数 57 件中)

2. 都道府県別団体数

福岡県と沖縄県が各 7 団体で最多となっています。

また、中国地方で初の団体登録がありました。



3. 配布チケット数について

2021 年度に配布を受けたチケット数	票数	%
1～10	3	8%
11～30	9	24%
31～60	7	19%
61～100	3	8%
100～200	4	11%
201 以上	9	24%
配布なし	2	5%

配布されたチケットの使用率	票数	%
100%	12	32%
80～99%	10	27%
60～79%	5	14%
40～59%	2	5%
20～39%	3	8%
1～19%	3	8%
使わなかった	2	5%

73%の団体が 60%以上の使用率でした。

4. 猫の実態

さくらねこTNRをした猫は行政に公式に認められた地域猫ですか	票数	%
はい	2	5%
いいえ	35	95%

昨年度は行政に公式に認められた地域猫は 16%でしたが、今年度はたった5%と昨年度の約 3 分の 1 に減少しています。

団体がエサやりなどの世話をしている外猫の数	票数	%
0	5	14%
1	0	0%
2～5	7	19%
6～10	2	5%
11～15	3	8%
16～20	4	11%
21～30	4	11%
31～50	6	16%
51～80	2	5%
81～250	4	11%
251～500	0	0%

5. さくらねこTNRを実施した猫の変化

TNRを実施した地域の猫に関して(複数回答)	票数	%
子猫の出産が減った・ほぼゼロになった	35	95%
猫の性格が穏やかになった	17	46%
さかり声、ケンカが減った・ほぼ無くなった	26	70%
尿臭が激減した・ほぼなくなった	16	43%
猫の健康状態が良くなった	17	46%
その他	1	3%

アンケートに回答した 37 団体中、子猫の数が減ったと回答したのは 35 団体で 95%に達しています。また、苦情の多い鳴き声やケンカについても 70%が減ったと回答しました。

TNR後の猫の数について	票数	%
猫の数が減った	31	84%
猫の数は変わらない	6	16%
猫の数が増えた	0	0%

昨年度に続き、「猫の数が増えた」を選択した団体はなく、「猫の数が減った」と回答した団体が84%でした。繁殖を抑えるTNRの効果があられています。

6. さくらねこTNRを実施した地域住民との関わりの変化

地域住民との関わりの変化について(複数回答)	票数	%
住民の理解が得られた	27	73%
苦情が減った	21	57%
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	19	51%
協力してくれるひとが増えた(できた)	28	76%
地域の人に感謝された	29	78%
猫を可愛がってくれる人が増えた	10	27%
その他	1	3%

その他を選択した団体からは、「地域間格差が大きい。保健所や市が理解のある地域と、まったく無理解の地域で大きな開きができている。」という報告がありました。行政と連携できている地域では、苦情が減って協力者が増えるなど良い変化が現れています。

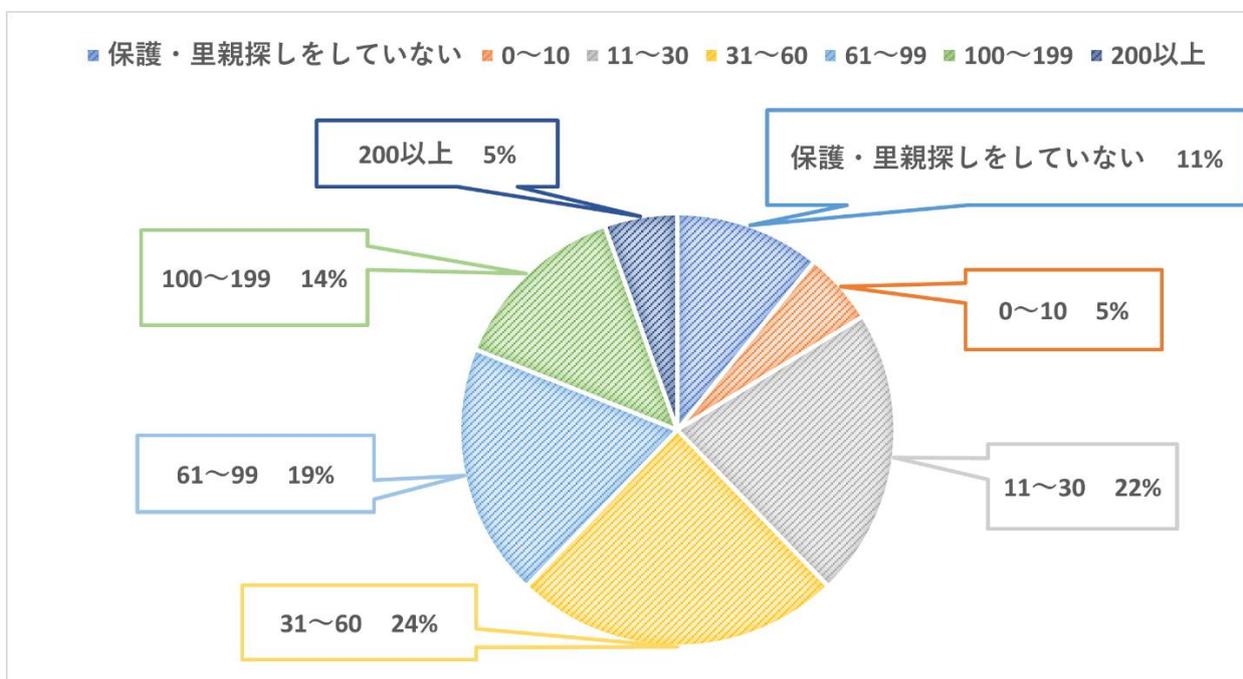
ある団体は、「地域猫活動が動物愛護の押し付けにならないよう、猫の苦情対応にも真摯に対応してバランスを取っている」と回答しました。命が最優先であることに変わりはありませんが、この団体が言うように猫ファーストだけを主張していても好転しません。理解が進まないことへのいら立ちやあきらめの声も寄せられていますが、多くのアンケート回答からは、地道な努力が実を結び、地域住民との関係が好転している状況がうかがえます。

住民と猫ボランティア(団体)の関係は	票数	%
良くなった	27	73%
変わらない	9	24%
悪くなった	1	3%

7. 猫の保護や里親探しの実態

猫の保護および里親探しをしていますか	票数	%
はい	34	92%
いいえ	3	8%

過去一年間に保護、里親探しをした猫の数	票数	%
保護・里親探しをしていない	4	11%
0～10	2	5%
11～30	8	22%
31～60	9	24%
61～99	7	19%
100～199	5	14%
200以上	2	5%



37 団体で合計 2,504 頭の猫の保護、里親探しをしました。

飼っている(保護中を含む)猫の数	票数	%
0	4	10.8%
1	0	0%
2～5	2	5.4%
6～10	4	10.8%
11～15	1	2.7%
15～20	1	2.7%
21～30	4	10.8%
31～50	5	13.5%
51～80	11	29.7%
81～100	3	8.1%
101 以上	2	5.4%

8. 今後の課題

今回の課題や問題(複数回答)	票数	%
人手不足	30	81%
資金不足	30	81%
捕獲がうまくできない	14	38%
行政との調整	17	46%
地元地域との調整	16	43%
その他	1	3%
特になし	1	3%

9. 飼い猫の捕獲について

2021 年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	3	8%
いいえ	34	92%

アンケート回答者 37 団体のうち 3 団体(8%)が、飼い猫が捕獲機に入ったと回答しましたが、手術まで至った例はありませんでした。

10. ピックアップコメント

- 当団体が無料不妊手術チケットを使って 2021 年度に手術した猫の数は222頭でした。増やさない、産ませないという活動へのご理解も得られてきました。ひとえにさくらねこサポーター様のご厚意のたまものだと日々かみしめながら、今後も不幸な命を増やさぬよう、活動を続けていきたいと思えます。
- いつもチケットをありがとうございます。毎月大切にに使わせていただいております。丹波市や近隣の市では不妊去勢手術が高額なため、手術ができずに殺処分、遺棄、交通事故、山が近いキツネなどに食べられたりして産まれてきた子猫たちは命を落とすことがとても多かったのですが、どうぶつ基金様のチケットで先行型 TNR を進めることができるようになりました。本当にありがとうございました。
- 2021 年度も、無料分手術チケットのお陰で TNR 活動を継続して行うことができました。1つのエリアで20匹ぐらいの TNR をした後、地域住民の目にも分かるほど野良猫の数が一定数を超えて増えることがなくなり、活動の効果が現れてきているように思います。地元の餌やりさんも、とても感謝しております。私どもは小さな団体ですので、チケットなしでは、とても活動を継続する事ができないので、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。
- 寄付をして下さる皆様のおかげで、限られた自治会予算でも TNR を推進することができ、本当にありがとうございました。TNR に取り組んで以来、地域内で子猫が生まれたという連絡は受けていません。「TNR は最後の 1 頭までやりきることが大事」という、どうぶつ基金の考えのもと警戒心が強く捕獲が難しい猫もあきらめずに TNR 活動を継続しています。2021 年度は、チケットの利用率が極端に低かったですが、「最後までやり切る」段階にきている成果の裏返しだとご理解いただければと思います。団体枠の登録はいったん解除させていただきましたが、引き続き自治会活動として TNR を継続いたします。この素晴らしい制度が、次の新たな地域でも成果につながることをお祈りいたしますとともに、大変お世話になりありがとうございました。
- 皆様のあたたかい応援に背中を押されて日々の活動・TNR 推進をしております。そして、たくさんの「さくらねこ」たちが太陽の陽射しを浴び過ごす事ができています。そして地域住民のコミュニケーションも円滑に進めることができております。本当にありがとうございます。
- 無料不妊手術チケットでたくさんの野良猫に不妊手術をしてあげることができました。高槻市では、市民から野良猫に関する苦情が激減したと評判です。これからも猫保護活動の仲間と協力して、「人と猫が仲良く共生している街」が一つでも増えるよう TNR 活動を頑張ります。

12. 総括

- アンケートに回答した 37 団体中、行政に認められた地域猫活動地域で活動している団体はたったの 2 団体(全体の約 5%)でした。飼い主のいない猫の不妊手術等に助成を行っている行政が増えていますが、そのほとんどが地域住民の同意を得ていることを条件としており、これが猫問題解決の高いハードルとなっています。

解決のために必要なことは「まず猫の繁殖を止める＝不妊手術」ですが、行政の助成金制度ではこの最初の一步を踏み出すことすらできず、まさに「絵に描いた餅」です。81%の団体が「資金不足」を課題としてあげている状況で、どうぶつ基金の無料不妊手術チケットは活動の拠り所となっています。しかしながら、どうぶつ基金のチケットは残念ながら無限ではありません。行政が真に実効性のある助成金制度を実施することは、殺処分ゼロに向けて欠くことのできない要素であると考えます。

- 動物愛護思想の高まりやコロナ禍でのペット飼育に注目が集まったこともあり、2021 年度も多頭飼育崩壊のニュースが相次ぎました。ニュースでは 100 頭を超えるような大規模崩壊ばかりが取り上げられますが、数十頭規模の多頭飼育崩壊は予備軍を含めて全国で多発しています。それを裏付けるように、一般枠ボランティアのアンケートでも多頭飼育崩壊の相談を受けている事例が増加しているほか、団体枠ボランティアにおいてもアンケートに回答した 37 団体中 20 団体が過去 1 年間に相談を受けたと回答しています。もっとも多い団体では 1 年間で 18 件の多頭飼育崩壊に対応していました。

行政と協力関係ができていないケースでは、どうぶつ基金の多頭飼育救済支援の申請を行い無料で全頭の手術を実施できていますが、行政が申請を拒否しているケースも見受けられます。そういった場合は団体が費用負担を余儀なくされ、大きな負担となります。全国の行政に対し、どうぶつ基金の多頭飼育救済支援についてさらに周知を図っていく必要があります。

- 近年、行政と良好な関係を築き、協働して活動している団体が増えてきました。そういった団体からは、行政の理解度の違いにより地域間格差が広がっているという意見が届いています。

残念ながら、今後もこの傾向はより強くなると考えています。行政の理解が乏しい地域では、「餌をやるから猫が増える」という誤った考えのもとで誤った対策がとられ、解決の糸口さえ見いだせないという状況が続くでしょう。

アンケートからは、団体が行政に代わる相談窓口となっている様子が見取れます。慢性的な資金不足と人手不足に悩むなか、必死の思いで活動を続けるボランティア団体が、無知・無理解な行政のしわ寄せに苦しんでいます。

この状況を変えるには、理解のない市町村に考え方を改めさせることが必要ですが、そのためには、その近隣で TNR の成功事例を積み上げることが最も効果的です。そして、決して感情に訴えず、実例を挙げ実証に基づいた提案を根気よく続けていくことが求められます。